



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 早川清志
 題字 島崎洋路

『千本の植栽完了、お疲れ様』
 通年コース第一回開催報告『植林』



塾での植林としては三年ぶりのよい天気

伊那市西春近の真向沢地籍、下殿島区々有林は十数年前に山林火災が発生したその跡地。区も手がつけられずにそのままになっていたのですが、KOA森林塾がその

場所をお借りして、二千二年前から植林や下刈りをさせてもらっています。なにせ火災跡地だけに、枯れて倒れた一抱えほどのアカマ



4反部弱の面積に千本。もう少しで終了

ツがそここに転がり、地ごしらえが大変。イントラの後藤さん、川島さんなどにお手伝いいただいて、ようやく植えられるまでに出来たのが四日前でした。
 昨年は大雨で一日延期し、朝まで土砂降りの雨が上がるのを待って出かけましたし、一昨年も雨の合間に何とか植え終えた、という曰くつきの植林地なのですが、今年は少し肌寒かったもののおかげさ

まで快晴、絶好の植林日よりでした。
 二十人ほどで千本。保科先生に言わせるとプロなら四〜五人の仕事で、石もなく植えやすい山林だったそうですが、ほとんどの方が未経験、しかも実質は三時間ほどでしたからスピードはプロに近い速さだったかもしれませぬ。昨年同様「人使いの荒い塾だなあ」という声の間こえて来そうな午後でした。千本の植栽終了、お疲れ様でした。
 今年も仙台からの角田さん、和歌山からの神保さんはじめ全国各地から十四人の新しい方が集まってくれました。以後、塾では仕事のノ



40センチ四角の穴は簡単じゃないですよ

ルマはありませんので(たぶん!!)これに懲りずに一年間よろしくお付き合いください。
通年コース 第1回
4月24日(土) 植林
8時30分 島崎先生の山小屋に集合。自宅から歩いて3分の人々が1分ほど遅刻。天気は上々だが、朝は零度近くまで下がったように風が冷たい。
 先生方の紹介とあいさつ。スタッフ紹介、日程説明など

10時30分 林道を少し歩いて現場に到着。保科先生の植え方講義。
 ミルクにお弁当を取りにいった小名川さんを置いてきてしまった。林道入り口まで来てもらってそこで落ち合う。



最後の一本笹原さん頑張れ!!

苗畑で育てた三年生のヒノキ千本。全部植えられるかな
12時 お昼の休憩。皆さんもくくと植えたので半分強が終わった模様。恒例の豚汁が振舞われた。具のシタケだけは森林塾製。塾生の方が名簿順に自己紹介。それぞれの方がそれぞれの思いを持って来てくれています。矢島さん行方不明。講師の先生方、スタッフも順に自



午後三時過ぎ等高線沿いに子苗が並ぶ

己紹介
1時40分 じっとしている
 と少し寒い。午後の部開
 始。奥のほうから植えて
 きたのでだんだんと入り
 口のほつに近づいてくる。
 残り百本
3時 すっかり疲れてきた
 頃千本終了。お疲れ様で
 した。よく頑張つて植え
 てくれました
4時30分 小屋に戻つて先
 生方の講評。終了
 参加者/江上さん、小野沢
 さん、角田さん、梶永さん、
 金田さん、小名川さん、笹
 原さん、神保さん、杉村さ
 さん、田中さん、平さん、堀
 さん、増井さん、湯澤さ
 さん、矢島さん、斎藤さん、
 長坂さん
 講師/保科先生、島崎先生
 スタッフ/後藤、平林、坂野
 早川

『少数精鋭でみっちり』

専門コース第1回開催報告

他のコースに先駆けて今
 年もまず専門コースの第1
 回が開催されました。申込み
 は五人とやや寂しいものの、
 その分少数精鋭でみっちり
 と実践を行える事になりま
 す。先生方やスタッフより塾
 生のほうが少ないので、時に
 はあちこちからいろいろな
 違ったご指導が入ることが
 あるかもしれません。が、「え
 い、うじゃこい」と思わずに
 「何でだろう」と少し考えて
 みてください。
 木を倒す事の基本は同じ
 ですが、木の種類や時期、あ
 りいは傾斜や気象状況、出し

の方法などにより、ひとつと
 して同じという事はありま
 せん。多くの境界条件を勘案
 した後に、いくつかのベター
 な方法の中から一つを選択
 する事になります。どんな条
 件を優先したかによって、最
 終結論が違ってくる事もま
 まあります。ですからベスト
 な伐倒というものは存在し
 ないのかもしれない。しか
 し常にベストに近いベター
 な方法で木を倒したいもの
 です。



塾生同士で協議しながらの伐倒



一皮剥けて、伐倒に落ち着きが出てきました



一周回して、8本。暗算でヘクター1,600本

専門コース第1回開催

4月16日(金)

18日(日)

一日目

8時30分 島崎先生の山小
 屋に集合。保科先生のあ
 いさつ、自己紹介、班分
 け、日程説明

9時30分 まずみヶ丘平地
 林の一角。伊那市有林と
 市が管理委託を受けてい
 る森林をお借りして保残
 木をマークしたあと伐倒
 開始。大野班は三重県
 チーム。昨年の通年コー
 スに揃ってきてくれた滝
 口さんと大河内さん。同
 じボランティア団体で何
 度も伐倒を経験している

ので見てもまずまず
 安心。ただ地元では小径
 木中心のスギ、ヒノキの
 間伐なので、やや粗く
 なっているというトラ大
 野の指摘。胸高三十セン
 チ近いアカマツを思った
 ように倒すためにはまず
 は基本に立ち返つて。
 一方椎原チームは二年
 続けて通年コースに通つ
 てくれた松永さんは今日
 はお休みなので、昨年の
 集中コースからの松岡さ
 んと森林塾の主になりつ
 つある紅一点の長坂さん
 の二人。椎原さんから懇
 切丁寧なアドバイスを受
 けていました

を崩されて、精密検査を
 してもらったが、何の異
 常もなかったとのお話。
 タバコもやめられている
 し、なにはともあれ良
 かった良かった
15時 現場での作業終了、
 小屋に戻つてチェーン
 ソーメンテナンス
16時 先生方の講評、質疑
 応答、解散

二日目

12時 現場で昼食
1時 午後の作業開始。島
 崎先生が合流。少し体調

8時30分 島崎先生の山小
 屋に集合。島崎先生のあ
 いさつの後現場に向かう。
 松永さんも合流し塾生五
 人のフルメンパー。少し
 ブランクはあるものの昨
 日の分も取り返すべく松
 永さん張り切つて伐倒



キャブ調整研究中

て三日間の仕上げです。現場で伐倒開始。今回は伐出方向を考えての伐倒だったので丸太の山が川のように並んできた
12時 昼食
1時 午後の部開始。松永さん一日分の遅れを取り戻したか。三十センチ近いアカマツやサワラを続けざまに切る。松岡さんも負けじと大物に挑戦し、まずまずの方向に倒す
3時 現場終了。小屋に戻る。今日もチェーンソーのメンテナンス
4時15分 鳥崎先生の講評。皆さん三日間で見違えるほど肩の力が抜けて上手になってきました。三日間お疲れ様でした。ではまた七月にお会いしましょう。その間機会があれば復習もお願いします。終了解散
参加者/大河内さん、滝口さん、長坂さん、松岡さん、松永さん
講師/保科先生、鳥崎先生、スタッフ/大野、椎原、坂野、早川

1時 午後の部開始。鳥崎先生が四メートルの釣竿を使って手っ取り早くヘクタール当たりの本数を調べる方法を説明してくれる。鋸谷式間伐法の鋸谷さんが使われているやり方で、半径四メートルの中に本数の二百倍がヘクタール当たりのおよその本数となる。ずいぶん簡単だ。三重チーム順調に伐倒を続けている
3時 本日の伐倒終了。小屋に戻ってチェーンソーメンテナンス
4時 先生の講評。解散
三日目
8時30分 鳥崎先生の山小屋集合。今回の最終日。けがない様子を引締め

次回以降の予定

通年コース 第2回

5月8日(土)

測 樹

森林の知りたい部分(林分)にどんな太さ、高さの木がどれだけあるかを調べます。もちろん樹種も分からなくちゃですね。森林の現況調査の一環です。これらのデータからこの林分の材積(立木の体積)や込み具合が分かります。即ちどのような手入れをしたらよいかということも判断できます。
8時30分 鳥崎先生の山小屋に集合。筆記用具、電卓お弁当。担当は早川ほか。夕方道具屋さんに来てもらう予定です

第3回 5月9日(日) 施業診断など

測樹の結果 その林分がおおよそどのような状態にあるかが分かります。込んでいたら間伐をする必要があるわけで、期待する山の姿や、どのくらい頻繁に、丁寧な手を入れられるかによって施業の方針が決まってきます。
8時30分鳥崎先生の山小屋に集合。担当は鳥崎先生

リレー通信

「自然に寄り添って 生きるとは？」 江上 智子

こんにちは、通年コースの江上です。私が、KOA森林塾を初めて知ったのは、浜田久美子著『森をつくる人びと』でした。「山仕事をやっている」と、愉快で愉快でイヤな日がない」という鳥崎先生の口癖が私の心を捉えました。

体の小さい私は、幼い頃より漠然と何か恐ろしく感じているものがありました。小さいことは、根本的に動物として劣っていることを意味し、生き抜いていく力がないのでは、と感じていたのだと思います。

現代は大量生産の流れの中で、多様性を面倒とし、単純に一元的にくくることを追い求めています。人間自身も一般化・画一化されて、平均的で大多数をしめる者、大きく速く強い者に意識が向き、許容範囲外の者は切り捨て

られ、省みられることのない時代です。

昔は、自分に合った道具を自分で作って生活をしていて、ベスト・ワンではなく、オンリー・ワンの一人一人を大切にしている心が、日常の当たり前にあったのではないかと思います。

また自分で作る場合は、その大きさ・形の決定の元にある意味を知らなくてはその状況に合った判断は出来ませんし、応用は効きませぬ。既成品は、それを他人に依存して、自分自身、やはりこの根底を失っています。

大学を卒業後、建築設計事務所に勤めていました。就職を決める時、皆はいかに安定し、楽にお金が入る仕事に就くかを考えていました。しかし、なぜか自分はそのような気持ちになれず、職人の修行をする場の考え方が残っている安月給な、設計事務所という仕事をを選びました。

やがて自分が家を欲しいと思うようになり、また、責任が重く忙しくなるに従い、矛盾を感じました。仕事の全体を見て判断をする立場になるに従って、ますます明確に社会の矛盾も見えてきます。

あるとき独立を決め、設計事務所の登録をしました。当然それは目の前のことに忙

殺されていた日々から脱却し、真に自分の生きる道を問うこととなりました。そしてだんだんと、三十年後四十後の社会に、お金に頼るだけの生活の見通しの無さを感じるようになりました。

ある若夫婦の「本物の木を使った家が欲しいけど、高いから、いっぱい働かなくちゃ。可愛がって育てる余裕が無いね。」という言葉にハッとしました。「家は自分たちを守ってくれる存在。その家と向き合って、御礼の気持ちを入れて暮らす、というのが暮らし方の知恵。」京町屋に住む方の言葉を思い出して、現代の矛盾を感じました。

ある時ふと、自然に頼るというのを考えました。その途端、自然を大切にすることが意味を実感しました。すべての物を買っている生活で、自然から恩恵を受けたという実感はなく、自然を大切にしているのは単なる道徳心からでしかなかったということに気付いたのです。

それからはものすごい勢いで自然のことに向かって気持ちが高まっていき、実際に飛び込んでいったところでは、小さな炭焼き小屋に一人で泊まらせてもらいました。木は皮まで余すところなく使い、屋根には力やを賣い



テレビや本などで段々調べていくと、更に私の常識は塗り替えられて行きました。カマキリの卵の高さが、その冬の積

た、直線などどこにもない小さな小屋。「材料さえ整えてあれば一人で二日ぐらいで建てられるよ。雪に埋もれても十年建っている。」と聞いてびびくり。
薪ストーブの火は点けたまま、鍋や薬缶を掛けて山仕事に。夜ももちろん火を点けたままで寝るわけで・・・火を点け放しにすることなど考えてもみていかなかった私です。その上、ゴミもその中にポイでゴミ箱要らず。火は、うまくすればこんなに使えるものだと教わりました。

ある民家が、家の中で火を使える造りとして、煙・煤・蒸気に対して、火の点いている薪・炭を扱うステージとしても、いかに理に適ったものであるかが見えてきました。何とダイナミックであることか。汚れることを気にせず、それでいて掃除も簡単。また、この炭焼き小屋はその材料が何であるかが、はつきりと判ります。何からどう出たのか良く判らない呼吸をしない死んだ材料で作る現代の家とは対照的でした。現代生活に浸りきっている私が、あの小屋で過ごしたいと思ひ、数日を過ごせたといいことは大きな事であり、また数多くの変化を日常にもたらしました。

雪量を予想する目安になると知って、動植物がいかに人間より感覚が鋭く、先の事を察知して動いているかに驚きました。自分の畑にとつて知りたい事は、身近な自然の方が、天気予報などより、よっぽど正確ないろいろな事を教えてくれると。
養老孟司氏の「刃物のような簡単なもので、複雑な人間が、いとも簡単に壊れてしまふ。そんなに簡単に壊れてしまふのだから、一突きで元に戻せるのか？」この一言は強烈でした。命の重みを初めて解った気がします。「人間も生きていくために、殺して食べて使っていくいます。その時、その重みを心に思っている事が大切なんです。」殺し食べ使うのが自然の循環。それが悪いのではなく、殺し過ぎず、使い過ぎず、感謝の気持ちを持つことが大事なのだと。

もいかに素晴らしいかを知ることにつけ、日本人であつて良かったと思ひます。
また、森林ボランティアでの体験は、私の知らない野山を駆けまわつて遊んでいたという子供の感覚に、思いを馳せることとなりました。
自分のエネルギーのほんのわずかな部分だけしか使わずに暮らしていることも感じ、自身の中の未知なる部分に驚きました。便利な生活の中で体を使わず、それ故体調を崩している。これを使えば皆が元気になって、地球にとつても最大の省エネルギーになるなんて、こんなに良い事はないだろうと思ひました。

一方、知識のない個々の判断で、どの木を残すか決めて動くことに戸惑いました。建物の設計では、現場を知り、どういふヴィジョンで建てたい建物であるのかを知ることから始めます。その上で、何十年もの先を考え、数多くの相反する関りの中、どこにバランスを取るかを決めていきます。山を考えるにも、知識やヴィジョンがあつて動くこと、それなくしては動けないと重く感じました。そんな中でKOA森林塾の存在を知りました。ここが私の求めている、しかしなかなか無い場所であるうと思ひました。それが、天竜川の上

流であることを知り、静岡に住む私は、「あー川も山もこと繋がつているところだ」と妙に親近感を覚えたのでした。
自然に寄り添つて生きるとは一体どういふ事なのだろう？これが今一番の課題です。御託を並べるのは簡単ですが、現実には難しいことです。矛盾は矛盾として感じながらも、実は現代人。実体験など少なく、安易に他人の話を自分の体験としてすり替えることが身に染み付いています。
自然から学んで自分で判断するのは、自分で責任をとる事になり、それはなかなか簡単ではありません。無理の利かない自然と、無理をせず向き合つのも、知らないうちには無理している現代人にとつては難しいことです。
せめてその入口を、この一年間で自分のものに出来たらと思つております。人生果たしてどういふ方向にころがりますことやら。
この森林塾での体験が、私の体の中に何を呼び起こしてくれるのか楽しみにしています。どうぞよろしくお願ひいたします。

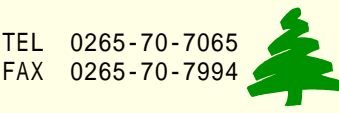
そして、テレビや本などで段々調べていくと、更に私の常識は塗り替えられて行きました。カマキリの卵の高さが、その冬の積

自然の循環という意味で、日本の風土が世界から見

流であることを知り、静岡に住む私は、「あー川も山もこと繋がつているところだ」と妙に親近感を覚えたのでした。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp

今年もまたいよいよ始まりました。遠くからの方大変でしょうが無理のない範囲でおいでいただければと思つております



コラム

ヒノキを植えながらついつい考えてしまつのは、このヒノキが生長して一抱えになり、材として十分利用できるようになった時、ヒノキというブランドはまだ通用しているだろうかという事。スギの二の舞にならないといふ保証はどこにもない。それなりに手入れされたヒノキならともかく、単なるヒノキは花粉症の元凶とだけしかみられないかもしれない。その頃にはスギ花粉症が克服されているかもしれない。

おわりに